



2020年10月24日

第48回（2020年度）労働衛生コンサルタント試験  
（労働衛生一般）の正答予測

柳川行雄

## 内容

1	はじめに	3
2	解説と試験協会発表正答	4
(1)	問 1 正答予測 1	4
(2)	問 2 正答予測 4（出題ミスの可能性あり）	5
(3)	問 3 正答予測 1	6
(4)	問 4 正答予測 3	6
(5)	問 5 正答予測 5	7
(6)	問 6 正答予測 2	7
(7)	問 7 正答予測 2	8
(8)	問 8 正答予測 4	8
(9)	問 9 正答予測 2	9
(10)	問 10 正答予測 4	10
(11)	問 11 正答予測 5	10
(12)	問 12 正答予測 2	11
(13)	問 13 正答予測 1	12
(14)	問 14 正答予測 3	13
(15)	問 15 正答予測 5	13
(16)	問 16 正答予測 1	13
(17)	問 17 正答予測 4	14
(18)	問 18 正答予測 5	14

(19)	問 1 9	正答予測	2	.....	15
(20)	問 2 0	正答予測	5	.....	15
(21)	問 2 1	正答予測	1	.....	15
(22)	問 2 2	正答予測	5	.....	16
(23)	問 2 3	正答予測	4	.....	16
(24)	問 2 4	正答予測	3	.....	16
(25)	問 2 5	正答予測	1	.....	17
(26)	問 2 6	正答予測	3	.....	18
(27)	問 2 7	正答予測	2	.....	19
(28)	問 2 8	正答予測	3	.....	20
(29)	問 2 9	正答予測	4	.....	20
(30)	問 3 0	正答予測	3	.....	21

## 1 はじめに

2020年の労働衛生コンサルタント試験の正答予測である。内容が正しいことを保障するものではない。

内容についてのご質問や、修正の御意見は、[労働安全衛生コンサルタント試験 掲示板](#)で随時受け付けているので、間違いを発見されたという方はぜひ書き込まれるようお願いする。

## 2 解説と試験協会発表正答

### (1) 問 1 正答予測 1

問 26 下表は労働衛生の基本的対策のうち、5 つの対策について、その実施事項例を示したものである。実施事項例 A～N (G 及び I は使われていない。) に関する (1) ～ (5) の組合せのうち、基本的対策に対応した実施事項例として適切なもののみの組合せはどれか。

基本自制策	実施事項例
作業環境管理	A：作業環境の測定 B：保護具の使用
作業管理	C：作業時間の適正化 D：保健指導 E：作業方法の改善
健康管理	F：健康診断の実施 H：健康診断結果に基づく事後措置
労働安全衛生マネジメントシステム	J：安全衛生目標の設定 K：システム監査
リスクアセスメント	L：安全衛生方針の表明 M：危険性または有害性の特定 N：リスクの見積り

(1) A C H N

- A：正しい。
- B：誤り。保護具の使用は作業管理
- C：正しい。
- D：誤り。保健指導は、健康管理
- E：正しい。
- F：正しい。(生物学的モニタリングを除けばだが)
- H：正しい。
- J：正しい。
- K：正しい。
- L：誤り。労働安全衛生マネジメントシステムであろう。

M : 正しい。

N : 正しい。

## (2) 問 2 正答予測 4 (出題ミスの可能性あり)

問2 我が国の労働衛生統計等に関する次のイ～ニの記述について、正しいもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

イ 休業4日以上の死傷者数は、過去10年間でいけば、微増傾向にあり、平成30年は約6万人である。

ロ 休業4日以上の業務上疾病者数は、平成20年以降、7千人から9千人の間で推移し、そのうち約6割が災害性腰痛である。

ハ 厚生労働省「じん肺健康管理実施結果調」によると、じん肺の有所見者数は年々減少傾向にあり、ここ数年は1万人台で推移している。

ニ 厚生労働省の平成30年労働安全衛生調査(実態調査)結果によると、労働者数50人以上の事業場のうち、ストレスチェック制度の実施事業場の割合は約8割である。

(4) ロ ニ

イ 誤り。休業4日以上の死傷者数は、過去10年間でいけば、微増傾向にある。また、平成30年の被災者数は12万人を超えている。

ロ 正しい。休業4日以上の業務上疾病者数は、平成20年以降は、7千人から9千人の間で推移している。また、その6割程度は災害性の腰痛である。

ハ 誤り。厚生労働省「じん肺健康管理実施結果調」によると、じん肺の有所見者数は年々減少傾向にあるが、平成30年には1,366名である。1万人台で推移していたのは、平成7年から同13年までのことである。

ニ 正しいとしておく。厚生労働省の[平成30年労働安全衛生調査\(実態調査\)](#)結果によると、労働者数50人以上の事業場のうち、ストレスチェックを実施した事業場の割合は90.9%であり、約8割とは言えない。しかし、イとハが明らかに誤っているので、ニを正しいとしないと正答がなくなってしまう。

なお、平成27-29年度労働安全衛生総合研究事業「ストレスチェック制度による労働者のメンタルヘルス不調の予防と職場環境改善効果に関する

研究」によると、ストレスチェック制度の実施義務対象事業場のうち、82.9%の事業場がストレスチェック制度を実施したとされている。

本問は、出題ミスの可能性がある。

---

### (3) 問 3 正答予測 1

問3 有害物質の性状、空気中での状態等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(1) 鉛合金の研磨作業では、鉛は主にヒュームとして発生する。

(1) 誤り。ヒュームとは高温で気化して蒸気となった金属が、作業空間で冷やされて固体粒子となったものである。研磨作業では粉じんが発生するが、ヒュームは発生しない。

---

### (4) 問 4 正答予測 3

問4 石綿に関する次のイ～ニの記述について、適切なものの組合せは(1)～(5)のうちどれか。

- イ 石綿は、蛇紋岩や角閃石が霜柱状に結晶した繊維状の鉱物である。
- ロ 石綿含有成形板は、現在も日本で製造等が行われている。
- ハ 石綿の管理濃度は10 f/Lと定められている。
- ニ 石綿は曲げや引張りに強く、不燃性、耐久性に優れている。

(3) イ ニ

イ 正しい。

ロ 誤り。石綿含有成形板の製造と新たな使用は禁止されている。法律違反がない限り、日本で製造等が行われていることはあり得ない。

ハ 誤り。石綿の管理濃度は、5 μm以上の繊維として0.15f/Lである。

ニ 正しい。石綿そのものが曲げや引張りに強いかは、やや疑問がないわけでもない。しかし、国土交通省のパンフレット「建築物のアスベスト安全対策の手引き」に「アスベストは、曲げや引張りに強く、不燃性、耐久性、親和性等に優れている」と記載されている。

従って（3）が正答となる。

---

### （5）問 5 正答予測 5

問5 電離放射線に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（5）電離放射線の確率的影響については、防護の目標はそれによる障害発生率の減少である。

（5）正しい。他の肢が明らかに誤っているということもあるが、（5）は誤っていると考える余地がない。

---

### （6）問 6 正答予測 2

問6 高気圧障害に関する次のイ～ニの記述について、適切なものの組合せは（1）～（5）のうちどれか。

- イ 減圧症として、かゆみ、痛み、発疹などの皮膚障害が生じる。
- ロ チョークスと呼ばれる四肢の関節痛、運動機能障害が生じる。
- ハ 肺酸素中毒の症状として、胸部の痛み、呼吸困難を生じる。
- ニ 中枢神経系の障害として、平衡機能障害を生じる。

（2）イ ハ

イ 正しい。減圧症の初期症状として、かゆみ、痛み、発疹などの皮膚障害が生じることがある。

ロ 誤り。チョークスとは、肺に表れる症状で、胸の痛み、咳、息切れなどの呼吸困難のことである。

- ハ 正しい。肺酸素中毒の症状として、胸部の痛み、咳、呼吸困難を生じることがある。
- ニ 誤り。中枢神経系の障害としては、知覚障害、運動障害、膀胱直腸障害、メニエール氏症候群、失語症又は症候性精神病等がある。
- 平衡機能障害は、どちらかといえば内耳・前庭機能障害として生じる。

---

### (7) 問 7 正答予測 2

問7 酸欠・硫化水素中毒とその予防に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (2) 100ppm の濃度の硫化水素にばく露すると、肺から吸収された後の酸化による無毒化が間に合わず、脳神経細胞に直接作用し、呼吸麻痺を引き起こす。
- (4) 空気中の酸素濃度が 17% の場合、自覚症状は現れないことが多いが、当該場所の換気を行う必要がある。

- (2) 誤り。吸入気中の硫化水素の濃度が 100ppm を超える連続ばく露では、気管支炎、肺炎、肺水腫による窒息が生じて死亡することがある。脳神経細胞に直接作用し、呼吸麻痺を引き起こすことによるのではない。
- (4) 正しい。酸素欠乏状態では、通常は、16% の酸素濃度を吸い始めると自覚症状が現れるといわれている。一方、18% よりも酸素濃度が低くなれば、換気を行うべきは当然である。

---

### (8) 問 8 正答予測 4

問8 振動障害防止対策に関する 次のイ～ニの記述について、適切なものの組合せは (1) ~ (5) のうちどれか。

- イ 振動工具のうち、締付工具としてバイブレーションシャー、ジグソーがある。
- ロ 振動工具の周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値と 1 日の振



動ばく露時間から日振動ばく露量 A (8) を算出する。

ハ 振動工具を有する事業場においては、振動工具管理責任者を選任し、振動工具の点検・整備状況を定期的を確認し、記録する

ニ 振動工具を使用する作業の作業開始時及び作業終了後には、手、腕、肩、腰等の運動は避ける。

(4) ロ ハ

イ 誤り。バイブレーションシャー及びジグソーは、「往復動工具」(電動モーター等の回転運動をクランク機構等により往復運動に変えて、刃物等を往復運動(振動)させ、切断等を行う工具)であり、「締付工具」ではない。なお、「締付工具」としては、インパクトレンチがある。

ロ 正しい。振動工具の周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値と1日の振動ばく露時間から日振動ばく露量 A (8) を算出する。

ハ 正しい。振動工具を有する事業場においては、振動工具管理責任者を選任し、振動工具の点検・整備状況を定期的を確認し、記録する

ニ 誤り。作業開始時及び作業終了後に手、腕、肩、腰等の運動を主体とした体操を行うべきである。また、体操は、作業中も随時行うことが望ましい。

---

## (9) 問 9 正答予測 2

問9 職場の熱中症に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(2) 熱への順化の有無は、熱中症の発生リスクに大きく影響する。

(2) 正しい。熱への順化とは熱ストレスにさらされることへの慣れのことをいう。熱中症の予防委は、7日以上かけて熱へのばく露時間を次第に長くすることが有効であり、順化するまでは適用すべき WBGT 基準値は低くする必要がある。

(10) 問 1 0 正答予測 4

問 10 厚生労働省の「情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン」に関する次のイ～ニの記述について、適切なものの組合せは (1)～(5) のうちどれか。

- イ ディスプレイの高さは、その画面の上端が目の高さよりも高くなるように調節する。
- ロ ディスプレイの位置、角度、明るさは、一定ではなく必要に応じて調整する。
- ハ ディスプレイは、画面に太陽光又は照明光が入射する位置に設定する。
- ニ ディスプレイに表示する文字の大きさは、文字高さがおおむね 3 mm 以上とする。

(4) ロ ニ

- イ 誤り。ディスプレイは、その画面の上端が眼の高さとほぼ同じか、やや下になる高さにすることが望ましい。
- ロ 正しい。ディスプレイの位置、角度、明るさは、一定ではなく必要に応じて調整する。
- ハ 誤り。ディスプレイは、画面に太陽光又は照明光が入射しないような位置に設定するか、ブラインド又はカーテン等を設けたり、間接照明等のグレア防止用照明器具を用いたりする。
- ニ 正しい。ディスプレイに表示する文字の大きさは、小さすぎないように配慮し、文字高さがおおむね 3 mm 以上とするのが望ましい。

(11) 問 1 1 正答予測 5

問 11 健康診断に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (5) 健康診断について、法令に示された実施項目に加えて検査を実施する場合、労働者の同意は必要ない。

(5) 誤り。労働者と事業者は対等な労働契約の主体であり、事業者が一方的に労働者の同意なく健康診断を行うことは許されない。ただ、必ずしも個別の労働者の同意が必要というわけではなく、就業規則、労使協定、職場慣行等における根拠でも問題はないと考えられる。

なお、安衛法の義務がある項目については、労働者にも受診義務があり、合理的な労働者の意思解釈として受診に同意していると考えてよい。

## (12) 問 1 2 正答予測 2

問 12 厚生労働省の「健康診断結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針」に基づき事業者が講ずべき措置に関する次のイ～ニの記述のうち、適切なもののみを全て挙げたものは(1)～(5)のうちどれか。

イ 健康診断の実施に当たっては、受診率が向上するよう労働者に対する周知及び指導に努める必要がある。

ロ 異常の所見があると診断された労働者の健康診断の結果について、医師等の意見を聴かなければならない。

ハ 医師等の意見に基づいて、就業上の措置を決定する場合には、あらかじめ当該労働者に通知しなければならない。

ニ 医師等に対し、健康診断の個人票に、就業上の措置に関する意見の記入を求める。

(2) イ ロ ニ

イ 正しい。指針の2(1)に同旨の記述がある。

ロ 正しい。安衛法第66条の4及び指針の2(3)に同旨の記述がある。

ハ 誤り。指針2の(4)イには、「事業者は、(3)の医師等の意見に基づいて、就業区分に応じた就業上の措置を決定する場合には、あらかじめ当該労働者の意見を聴き、十分な話し合いを通じてその労働者の了解が得られるよう努めることが適当である」とされているが、「あらかじめ当該労働者に通知しなければならない」とまではされていない。

ニ 正しい。指針の2(3)ニに「事業者は、医師等に対し、労働安全衛生規則等に基づく健康診断の個人票の様式 中医師等の意見欄に、就業

上の措置に関する意見を記入することを求めることとする」とされている。

(13) 問 1 3 正答予測 1

問 13 厚生労働省の「心理的な負担の程度を把握するための検査及び面接指導の実施並びに面接指導結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針」に関する次のイ～ニの記述のうち、適切なもののみを全て挙げたものは (1) ～ (5) のうちどれか。

- イ ストレスチェック制度に基づく取組の手順は、基本方針の表明、ストレスチェック及び面接指導、集団ごとの集計・分析となっている。
- ロ 衛生委員会等において、ストレスチェック制度の実施方法等について調査審議を行い、その結果を踏まえ、事業者がその事業場におけるストレスチェック制度の実施方法等を規程として定める。
- ハ 事業者は、ストレスチェック結果が実施者から、遅滞なく労働者に直接通知されるようにしなければならない。
- ニ ストレスチェック結果の事業者への提供について、労働者の同意が得られない場合には、遅滞なく廃棄する。

(1) イ      ロ      ハ

- イ 正しい。指針の 4 に同旨の手順が定められている。
- ロ 正しい。指針の 4 イ①に同旨の手順が定められている。
- ハ 正しい。指針の 7 (4) アに同旨の手順が定められている。
- ニ 誤り。安衛則第 5 2 条の 1 1 により、ストレスチェック結果の事業者への提供について、労働者の同意が得られない場合には、検査を行った医師等による当該検査の結果の記録の作成の事務及び当該検査の実施の事務に従事した者による当該記録の保存の事務が適切に行われるよう、必要な措置を講じなければならない。

---

(14) 問 1 4 正答予測 3

問 14 人体の免疫に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(3) 細胞性免疫では産生された抗体が病原体を攻撃する。

(3) 細胞性免疫では、マクロファージが抗原を排撃し、キラーT細胞が感染細胞を直接攻撃する。

---

(15) 問 1 5 正答予測 5

問 15 産業疲労（作業を行ったことによる疲労）についての次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(5) 疲労を他覚的に測定する指標には、POMS（Profile of Mood States）がある。

(5) POMS（気分プロフィール検査）は、疲労の測定にも使用することは可能であるが、自覚的な気分を調べるためのものであり、他覚的に測定するわけではない。

---

(16) 問 1 6 正答予測 1

問 16 オルトートルイジンに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(1) 常温で無臭の気体であり引火性がある。

(4) 神経毒性は確認されていない。

(1) 誤り。常温では液体であり、噴霧することにより許容濃度を超えても、臭気を十分に感じないが、わずかな臭気がある。なお、引火性があることは正しい。

(4) 正しい。神経毒性があるという報告はない。

---

**(17) 問 1 7 正答予測 4**

問 17 有害物質についての作業環境測定の実設計に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(4) 労働者が設備の上に乗出すなどにより労働者の呼吸域となる可能性のある位置であっても、生産設備や環境設備などと重なる場合は、測定点から除くことができる。

(4) 誤り。作業環境測定基準第 2 条によって定められる測定点は、カッコ書きによって「設備等があつて測定が著しく困難な位置を除く」とされている。しかしながら、昭和 63 年 9 月 16 日基発第 604 号「作業環境測定基準の一部改正について」にある「『設備等があつて測定が著しく困難な位置を除く』とは、設備等があるために労働者の呼吸域となることが考えられないような位置を除く趣旨であつて、設備等の上に労働者が乗出す等により労働者の呼吸域となる可能性のある位置は、これに該当しないものであること」とされている。

---

**(18) 問 1 8 正答予測 5**

問 18 作業環境測定に関する 次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(5) ハ ニ

(5) 誤り。詳細は当サイトの [2015 年衛生一般問 15](#) の (5) の解説を参照して頂きたい。

---

(19) 問 19 正答予測 2

問 19 局所排気装置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(2) スロット型フードは、作業面を除き、周りが覆われているもので、囲い式フードに分類される。

(2) 誤り。スロット型フードは、外付け式フードである。囲い式フードではない。

---

(20) 問 20 正答予測 5

問 20 作業姿勢に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(5) 前屈姿勢やひねり姿勢は、不良作業姿勢とはいえない。

(5) 前屈姿勢、ひねり姿勢、腰高姿勢、しやがみ姿勢、後屈捻転等はいずれも不良作業姿勢である。

---

(21) 問 21 正答予測 1

問 21 有害性の調査に用いられる試験に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(1) エームス試験は変異原性試験の一種でありサルモネラ菌や大腸菌が使われる。

(1) 正しい。エームス試験に用いられるのは、要求性突然変異を有するネズミチフス菌（サルモネラ菌）や大腸菌である。

---

(22) 問 2 2 正答予測 5

問 22 「化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS)」に基づく化学品のラベルに記載する事項でないものは、次のうちどれか。

(5) 適用される法令

(5) 安衛法第 57 条第 1 項、安衛第 33 条に、「適用される法令」は示されていない。

---

(23) 問 2 3 正答予測 4

問 23 作業管理に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

(4) 夜勤における作業量は、体への負担を考慮し、昼間における作業量の 1.2 倍の範囲に収まるようにする。

(4) 誤り。本問は解説するまでもないと思うが、日本産業衛生学会交代勤務委員会は「夜勤・交代勤務に関する意見書」(1978年5月)において、夜勤勤務者に対して「昼間と同じ作業量を期待することは、夜勤の労働負担を高め、疲労を増させ、さらにはその回復をさまたげるにいたる」としている。中間における作業量を増やすべきではない。

---

(24) 問 2 4 正答予測 3

問 24 厚生労働省の「職場における腰痛予防対策指針」に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

(3) 椅子に腰掛ける姿勢では、適切な姿勢を定め、長時間その姿勢を保持するようにする。



- (3) 誤り。このような記述はない。むしろ、「立位、椅座位等の静的作業姿勢を長時間とること」は腰痛の発生要因であるとされている。

## (25) 問 2 5 正答予測 1

問 25 労働衛生保護具に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 放射性物質による汚染のおそれのある区域内の作業で、オイルミストが混在する場合に使用する防じんマスクの区分は **RS3** である。
- (2) 有機ガス用防毒マスクの吸収缶は、メタノール、二硫化炭素については、除毒能力試験の試験用ガスに比べて破過時間が著しく短くなる。
- (3) 電動ファン付き呼吸用保護具は、酸素濃度が 18%未満の場所では使用できない。
- (4) 有害物質の臭気等を感知できる濃度がばく露限界濃度より著しく小さい物質の場合には、防毒マスクの使用中に臭気等を感知したときを吸収缶の交換時期とすることができる。
- (5) 防じんマスクの装着の際、面体と顔面の密着性を高めるため、原則として、面体の接顔部に、接顔メリヤスを装着して使用してはならない。

- (1) 誤り。オイルミストが存在する場合、**RS3** は使用できない。**RL3** を使用するべきである。平成 17 年 2 月 7 日基発第 0207006 号「[防じんマスクの選択、使用等について](#)」の[別紙](#)参照。

なお、厚生労働省が作成した「[事故由来廃棄物処理業務特別教育テキスト（2訂版）](#)」では、除じん作業に関して、高濃度粉じん作業では捕集効率 95%以上、それ以外では捕集効率 80%以上の防毒マスクを使用しているとされている。これに従えば、高濃度粉じん作業で **RL2**（ミストがなければ **RS2**）それ以外では **RL1**（ミストがなければ **RS1**）でも、差し支えないこととなる。

- (2) 正しい。メタノール、二硫化炭素、ジクロルメタン、アセトン等の破過時間は、試験用ガスよりも著しく短い。
- (3) 正しい。電動ファン付き呼吸用保護具は給気式ではない。酸素を供給する能力はない。
- (4) 正しい。平成 17 年 2 月 7 日基発第 0207007 号「[防毒マスクの選択、使](#)

用等について」に「防毒マスクの使用中に臭気等を感知した場合を使用限度時間の到来として吸収缶の交換時期とする方法は、有害物質の臭気等を感知できる濃度がばく露限界濃度より著しく小さい物質に限り行っても差し支えないこと」とされている。

- (5) 正しい。絶対に使用してはならないというわけではないが、「原則として」ということなので正しい。

---

**(26) 問 2 6 正答予測 3**

問 26 厚生労働省の「安全衛生教育等推進要綱」に関する次の記述のうち、当該要綱に定められていないものはどれか。

- (3) 労働衛生コンサルタントに対して、事業場における健康保持増進措置及びメンタルヘルスケアに関する全般的事項を内容とする能力向上教育を実施する。

- (3) 誤り。このような規定はない。

(27) 問 2 7 正答予測 2

問 27 厚生労働省の「業務上疾病調」における疾病分類を次の A～C の 3 つの分類に分けた場合、業務上疾病と分類の組合せであるイ～ニについて、適切なもののみを全て挙げたものは (1) ～ (5) のうちどれか。

分類

- A 物理的因子による疾病
- B 身体に過度の負担のかかる作業態様に起因する疾病
- C A 及び B のいずれにも該当しない業務上の疾病

業務上疾病と分類の組合せ

組合せ	業務上疾病	分類
イ	著しい騒音を発する場所における業務による難聴	A
ロ	空気中の酸素濃度の低い場所における業務による酸素欠乏症	A
ハ	電子計算機への入力を反復して行う業務による上腕、前腕又は手指の運動器障害	B
ニ	暑熱な場所における業務による熱中症	C

(2) イ ハ

「業務上疾病調」においては、「騒音による耳の疾病」は「物理的因子による疾病」に、「手指前腕の障害及び頸肩腕症候群」は「作業態様に起因する疾病」に分類されている。従って (2) が正答となる。

なお、「酸素欠乏症」は独立した項目であり、「熱中症」は「物理的因子による疾病」に分類されている。

---

(28) 問 2 8 正答予測 3

問 28 安全管理等に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (3) 日常的な安全活動の4Sのうち、整理とは、必要なときに必要な物をすぐ取り出せるように、わかりやすく安全な状態で配置、収納することをいい、整頓とは、必要な物と不要な物を分けて、不要な物を処分することをいう。

(3) 「整理」の説明と「整頓」の説明が逆になっている。

---

(29) 問 2 9 正答予測 4

問 29 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づくシステムの運用に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。

- (4) 労働安全衛生マネジメントシステムのシステム監査は、第三者機関により実施することが基本である。

(4) 不適切である。システム監査とは、労働安全衛生マネジメントシステムに従って行う措置が適切に実施されているかどうかについて、事業者が行う調査及び評価のことであり、事業場内部の者を避ける理由はない。

---

(30) 問30 正答予測 3

問30 厚生労働省の「化学物質等による危険性又は有害性等の調査等に関する指針」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(3) ハザードは、労働災害発生の可能性と負傷又は疾病の重大性（重篤度）の組合せであると定義される。

(3) これはリスクの定義である。ハザードの概念に発生の可能性は含まれない。

---

**実務家のための  
産業保健のサイト**



この資料は「[実務家のための産業保健のサイト](#)」に掲示されています。よろしければサイトの方にもご訪問ください。